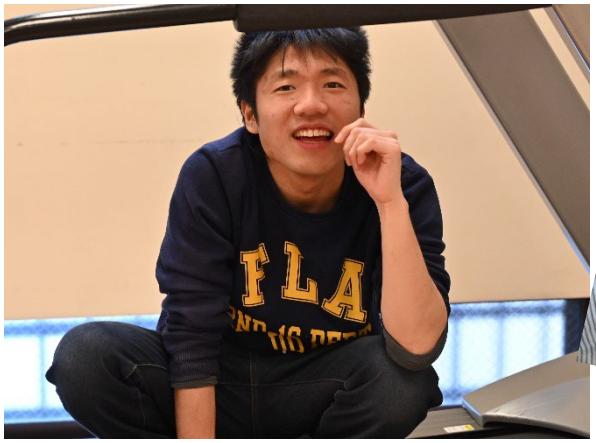
KSKR パンジーだより　No.92　第三種郵便物認可　通巻第 8989 号　2023 年 5 月 18 日発行

KSKR パンジーだより

一九九六年五月一日　第三種郵便物認可　毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行



今こそ、入所施設をなくすために

２０２３年、クリエイティブハウス「パンジー」はオープンして３０周年を迎えます。またオープンした年は、日本の知的障害者がトロントで開催されたピープルファースト世界大会に初めて参加した年です。

この３０年間ピープルファーストの当事者たちは、「入所施設をなくす」「自立生活をするための地域のサービスをふやす」「差別や虐待をなくす」「仲間をふやす」の４つを柱として活動をしてきました。しかし入所施設はなくなっていませんし、虐待も依然として発生しています。

世界では入所施設がなくなっている国もあるのに、日本では未だに１３万人もの人たちが入所施設でくらしています。昨年８月には、政府がどのような取り組みをしてきたのか、国連の障害者権利委員会による初めての審査が行われました。

権利条約の第１９条は「施設から地域に出て自立した生活を送る」ことを定めた条文です。権利委員会は「権利条約第１９条障害児を含む障害者が施設を出て地域でくらす権利が保障されていない」とし、「脱施設化」と地域でくらすための法整備や、予算配分の見直しを日本政府に求めました。

ピープルファーストの人たちが訴え続けてきたこと、パンジーが法人の理念として大切にしてきたことと同じです。

そしてまさに今、私たちは多くの人たちの協力を得ながら、「大空へはばたこう～自立への挑戦」の上映会を全国で開催します。「どんなに障害が重くても地域で普通にくらせる社会を作るために、入所施設でくらしている人が地域でくらすことができるために動き始めます。

（林　淑美）

KSKR パンジーだより　No.92　第三種郵便物認可　通巻第 8989 号　2023 年 5 月 18 日発行

大空へはばたこう！～自立への挑戦～

全ての知的障害者が地域で自分らしくくらすために

「どんなに障害が重い人も地域で自分らしくくらせるようになること」と、「入所施設がなくなること」は、パンジーのオープン当初からの私の願いでした。月日は流れ、パンジーでは知的障害当事者が次々に地域で自立したくらしを始め、入所施設からの地域移行を希望する人を受け入れるようになっても、入所施設は存在し続けました。

そんな折、やまゆり園事件が起こりました。１９人もの尊い命が奪われたのです。それでも入所施設は解体されることなく、新しいやまゆり園が建てられました。世界では入所施設がなくなっている国もあるのに、日本では未だに１３万人もの人たちが否応なしにくらしています。

昨年８月には、国連の権利委員会による初めての審査が行われました。障害者権利条約の第１９条は「施設から地域に出て自立した生活を送る」ことを定めた条文です。権利委員会は、日本は、この第１９条が保障されていないとし、「脱施設化」と地域でくらすための法整備や、予算配分の見直しを日本政府に求めました。

国連の勧告に背中を押され、私は「今しかない。入所施設でくらしている１３万人の人たちが、地域でくらせるように活動をしないと、永遠に入所施設は残り続け、多くの人たちが入所施設の中で人生を終えるだろう」と思いました。

「大空へはばたこう」の上映会をきっかけとして、どんなに障害が重くても地域でくらすために、それぞれの立場から動き始めてほしい、最初は小さな動きでも、それが大きなうねりとなり、知的障害のあるだれもが地域で自分らしくくらす社会の実現を願います。

全国で上映会やシンポジウムを開催します。お呼びがあれば、どこへでも出向いていきます。

多くの人たちとできることから始めたいと考えます。**「ぼくたちは、一人の人間として地域で自分らしく生きたい」。**当事者の思いが実現するように、共に歩みましょう！（林　淑美）

DVD 予約販売中！

- 第１章　入所施設がなぜ作られたのか
- 第２章　入所施設の中で何が起きていたのか
- 第３章　入所施設、世界では･･･
- 第４章　入所施設から地域へ
- 第５章　入所施設に入らない選択
- 第６章　入所施設のない社会へ　収録 105分

取材：山田 浩　ナレーション：前岡莉乃　監督：小川道幸

プロデューサー：　山田 浩 ／ 辰己正一 ／ 林 淑美
協　　力：　久保厚子 ／ 鈴木 良 ／ 大黒哲史 ／ 高山和彦 ／ 池下沙佑里 ／ 林 淑美
アンデシュ･ベルグストン ／ ロバート･マーチン ／ 全国手をつなぐ育成会連合会
大阪府立砂川厚生福祉センター ／ 社会福祉法人同愛会 ／ グルンデン協会 ／ 社会福祉法人創思苑
制 作 ・ 著 作 ：　パンジーメディア

定価：¥3,500円（税込）　ライブラリー価格：¥30,000円（税込）　発売･販売元：パンジーメディア

お申し込みは、パンジーメディア　℡ 072-968-1615（担当：岩井）

KSKR パンジーだより　No.92　第三種郵便物認可　通巻第 8989 号　2023 年 5 月 18 日発行

NHK ハートネットテレビ「フクチッチ」がやってきた!

２０２３年２月と３月に「ハートネットＴＶ　フクチッチ『知的障害』」で、パンジーの活動が紹介されました。

２月２７日放送の「知的障害・前編～差別や偏見と闘った歴史～」では、生田進さんがピープルファーストとの出会いで人生を変え、ピープルファーストと共に歩んできた歴史がつづられました。生田さんの思いが伝わってきて、とても感動しました。

３月６日の「知的障害・後編～知的障害のある人たちが活躍する放送局～」では、パンジーメディアが紹介されました。この放送のため、２人のテレビ戦士がパンジーメディアまで取材に来て「きぼうのつばさ」のスタジオリハーサルに参加しました。

パンジーメディアでは、どんな言葉でどんな思いを伝えたいのか、誰にでも分かる言葉を使えているのか、当事者と一緒に何度も話し合いをします。リハーサルでも本番でも、わかりにくいときには、その場ですぐに変更します。

今回ひっかかったのが「風土」ということば。これは意味がなかなか分かりにくい。テレビ戦士も、「漢字が苦手だから」と言いながら、一生懸命考えひらめいたのは！？（答えは、番組の中）

さて、テレビ戦士の２人は、「きぼうのつばさ」のキャスターも経験しました。それを見たキャスターの福田さんは、一言「うまいね」。みんなで大笑いしました。

ＮＨＫでは放送されなかったけれど、テレビ戦士たちに北海道の強制不妊手術のこと、沢山の知的障害者が入所施設でくらしていることを丁寧に伝えました。テレビ戦士は、驚きながらも「応援してくれている仲間がいることは、一人じゃないと思えて、心強いと思う」と話していました。

また「障害があるから、出来ないと決め付けるのではなく、パンジーメディアでは個々の個性を伸ばしているのを感じました。今まで、知的障害者が身近にいなくて知らないことが多かったけど、沢山のことを知ることができました」とも語っていました。最後に、みんなでパウンドケーキを食べて、写真撮影！

私は、今回来たテレビ戦士の２人が当事者と関わることで、変わったと感じました。やっぱり当たり前に関わって、知ることが大事なんだなと強く感じました。パンジーメディアって、大切です！

２つの番組は、**NHK for school** のサイトでいつでも見ることができます。
ぜひ、ご覧ください。　　（山下楓稀）

https://www.nhk.or.jp/school/tokkatsu/fukuchi/

番組 QR コード

「子供を産み育てる。当たり前の権利をうばわないで！」

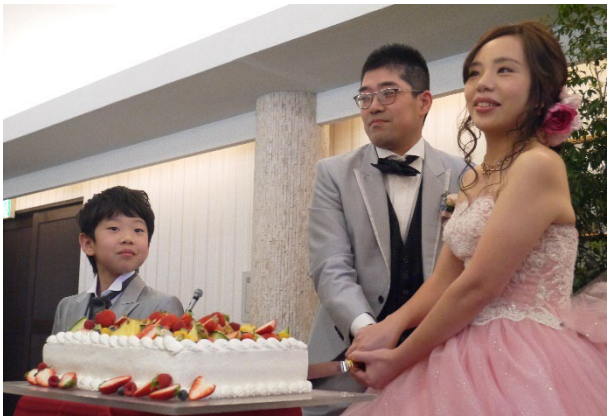
北海道・江差町でグループホームを運営する社会福祉法人あすなろ福祉会が、入居を希望するカップルに不妊処置を求めていたことが昨年１２月に明らかとなりました。２０年以上にわたって続けられ、分かっているだけで８組１６人のカップルが不妊処置を行っていたのです。

パンジーの当事者の間でも、この事件は大きな関心を集めました。ピープルファーストジャパン役員の山田浩さんは、報道を知ってすぐにピープルファースト北海道の松岡敏雄さんに電話をしました。「僕は怒っている。北海道に行くから一緒に行動しよう」。その頃、北海道では知的障害者に対する虐待事件が相次いで報じられ、松岡さんはどう動けばいいのか迷っていたと言います。それが山田さんからの電話で何をするべきかが決まりました。

そして、年が明けた１月１１日。雪が降り積もる函館空港にパンジーのメンバーが降り立ちました。山田浩さん、辰己正一さんの当事者２名と支援者４名での参加です。北海道のメンバー、およそ１５名と合流し、江差町を目指します。

翌１２日からは立て続けに抗議行動を行いました。あすなろ福祉会本部での樋口英俊理事長への抗議文の提出と１時間にわたっての話し合い、江差町役場での抗議。次の日は札幌に移動し、道庁での記者会見と福祉課担当者への抗議など。これらの様子は、「きぼうのつばさ」**第７７回放送の【今もつづく、優生思想。北海道・あすなろ福祉会～ピープルファーストのたたかい～】**のなかで詳しくお伝えしています。

この映像には、知的障害のある人たちの怒りが詰まっています。あすなろ福祉会が知的障害のある仲間に行ってきたことは、決して他人事ではありません。これまで社会のなかで差別を受け続け、一人の人間として認められて生きていくことが難しかった自分たちの問題そのものです。樋口理事長はピープルファーストの当事者たちを前に「知的障害者に子育ては不可能」と、平然と語りました。そして、江差町や北海道庁の担当者からは「検討中」「答えられない」という回答しかありませんでした。「これだけ運動をしてきても何も変わっていない、津久井やまゆり園事件で１９人も殺されたのに何も変わっていない」。



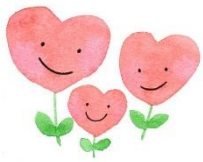
『結婚してよかった～知的障害のある夫婦に聞く～』の１場面

ピープルファースト北海道の土本秋夫さんが道庁の役人を前に叫び続けた怒りは、行動をともにしたみんなの思いを代弁していました。

私たちは決してそうは思わない。樋口理事長への一つの答えが、**４月放送の「きぼうのつばさ」第８０回【結婚してよかった～知的障害のある夫婦に聞く～】**です。こちらもぜひ見て下さい。

（福岡　挙）

ついに、結婚の相談がありました！



ついに、当事者から相談がありました。「Ｉさんと一緒に住んだりできるんかな？」と、真剣な恋の相談です。相談者は清水一男さん。パンジーⅡでみんなから慕われているムードメーカーです。清水さんが、きぼうのつばさ『私の歴史』に出演した時、Ｉさんへの想いを語っていました。番組を見た後、Ｉさんのことを聞いても「わからへん」など言って、すぐに話題を変えていました。そんな彼から、具体的な恋の相談があったのです！　驚きました。以来、清水さんとは、Ｉさんへの想いや結婚への気持ち、結婚後の将来の家族構成まで話をするようになりました。

パンジーでは、これまでにハートブレイク思春期研究所の「セクシュアリティ講座」で、当事者と職員ともに、性や恋愛について学んできました（ＤＶＤ『生きることの支援』にまとめられています）。清水さんも、恋愛や結婚について真剣に考えてきたのだと、改めて知りました。

そして、ハートブレイク所長の黒瀬清隆さんに協力をしてもらいながら、清水さんとＩさんとで住む場所は？　ヘルパーは？　結婚式はどうする？　などなど、具体的な話が始まりました。清水さんの恋愛と結婚も、全力で応援します！

パンジーＶの当事者２人の『私の歴史』

パンジーＶの２人の当事者が「私の歴史」を語りました。長尾明子さん、浅野真岳さんです。

長尾さんは「私の歴史」に出演したい気持ちがありましたが、家族の事が気になり「やっぱり出るの辞めたいんや」と私に伝えてきました。その時の長尾さんの表情は今でも忘れません。長尾さんと沢山話しをしました。長尾さんの本心は「出たい」の気持ちでいっぱい。家族とも何度も話しをし、最後には「本人がそこまで出たいのなら応援します」と言ってくれました。長尾さんは、涙を流して喜んでいました。

撮影には、新しい洋服を着て、準備万端で臨みました。メイクも撮影も全てが長尾さんにとって初めての経験です。メイクをして変わった自分の姿に、驚きと喜びが溢れ出る長尾さんの姿に、私は、少しばかり涙が…。

撮影を無事に終え、変わった自分を見てもらいたいと、仲間の前に行くと、「うわぁー可愛い！」「綺麗！」と大絶賛。一日中、メイクを落とさず過ごしていました。

次は、浅野さんです。緊張しつつも、どんと構えていました。浅野さんは、この日を待ち望み、何度も職員に生い立ちや経験を話しながら、原稿を作成していきました。撮影３０分前には髪をセットをし、撮影に挑みました。

大好きなビートルズのＴシャツを着て、大好きなギターを演奏するなど、とても素敵なシチュエーションでの撮影でした。撮影後は、「放送日が楽しみなんや～」とワクワクし、撮影の余韻に浸っていました。つらいことをたくさん経験してきた浅野さん。最後に語った夢がかなうように、私たちは精いっぱい応援していきます。（川股友子）

各場のリーダーが語る２０２３年度の抱負

パンジー

２０２２年２月、パンジーの畑で、農薬も肥料も使わない「菌ちゃん農法」をはじめました。専門家からやり方を教わり地道に作業を続けてきたのです。結果が出るまでドキドキしながら、待つこと１年。この冬、大根はみごとに大きく育ち、元気な野菜づくりの手ごたえを感じました。

パンジーの昼食に、自分たちが作った野菜が出てきた時は、本当にうれしかったです。これからはもっと多くの人に食べてもらえる量を作っていきたいと思います。

さらにこの春、本格的に「米粉パン」の試作をスタートしました。小麦とは違う生地の扱いの難しさから、当事者がどう作業に関わるか試行錯誤の末、米粉１００％の米粉パンの完成が近づいてきました。今年、パン屋が変わります。変わってみせます！　パンジーの活気ある姿を魅せていきたいと思います。

今、強度行動障害のある当事者Ｃさんの自立生活を実現するためのプロジェクトも進めています。入所施設から地域へ。パンジーでは、これまでにも地域移行を支援してきました。パンジーに通い、地域でくらす中で「この人はこんな力を持っていたのか」「こんな得意なことがあったのか」と気付くことがたくさんありました。課題も少なくないものの、これまでの経験を活かしながら、どんなに障害が重くても地域でその人らしくくらすことを今後も支援していきたいと思います。

（見舘史郎）

パンジーⅡ

２０２３年度パンジーⅡでは、当事者の健康的な体作りを目指し活動をします。パンジーⅡには、加齢により身体機能の衰えの目立つ人や車いすの人が多く通っています。そういった人たちが、日々健康に過ごしていけるように、ウォーキングや体を伸ばすリラックスのための活動を行います。

また、パンジーⅡに通う人の多くは、グループホームでくらしています。親が亡くなり、３６５日グループホームでくらす人も多くいます。創思苑が入所施設ではなく、地域で自分らしくくらすことを目指してきた結果です。そして今年度、新たに３名の人がグループホームで生活をスタートします。

その内の１人、奥園幸聡さんには、７～８年程前からグループホームへの入居を提案していました。家族が高齢になってきたことや、本人の自立を考えてのアプローチでしたが、「まだグループホームはちょっと…」という、本人も家族も気持ちの整理がつかない状況が続いていました。

大きな転機となったのは、コロナ禍でのパンジーⅡでの宿泊でした。陽性のため自宅から離れて１週間ほど生活をしました。その経験によって、自宅から離れてくらすイメージを本人、家族ともに持つことができたのです。７、８年かけて、本人や保護者と自立に向けた話し合いを続けてきた成果だとも思いました。

外部の方によるインタビューで、奥園さんが「今度グループホームに引っ越して、生活を始めます」と話していました。決心も固く、楽しみにしている様子です。

新しくグループホームで暮らす３人は、期待と不安を胸に家族から離れ自立の一歩を踏み出します。パンジーⅡの支援者全員で当事者の地域生活を支えていきます。そして、３名の方が１年後には、「グループホームで自立してくらして

いる」と自信を持って言えるように、それぞれの自立生活をともに創っていきます。（横山壯太）

パンジーⅢ

パンジーⅢに新しい仲間が入ってきました。今年、支援学校を卒業したばかりのＩさんです。初めてでわからないことばかりのＩさんに、昔からパンジーにいる当事者は積極的に声をかけています。「Ｉさん、こっちに座ろう」「一緒に仕事をしよう」「これはあそこにしまうんやで」と世話好きな先輩たちが次々と話しかけています。

その姿を見て、この数年にパンジーに入ってきた若い先輩たちも、少しぎこちなさはあるもののＩさんとコミュニケーションを取ろうとしています。

みんなの前では恥ずかしさもあって、Ｉさんに近づこうとしなかった立神思唯さんは、ウォーキングに行った時には自分から近寄って一緒に歩いていました。

みんな、仲間の姿を見ながら変わっていって（成長していって）いるのだな、と思いました。

パンジーⅢでは春を迎えるたびに、このような光景が見られます。そして、その中でも特に変わったのは山田浩さんです。メディアやピープルファーストで活躍していることもありますが、パンジーⅢの中でも、職員がびっくりするほど仲間のことをよく見ていて、困っている人がいると真っ先に声をかけています。

昨年は、北海道の入所施設で起きた虐待に対しての抗議行動、優生保護法によって強制不妊手術を受けた人の裁判傍聴、やまゆり園から地域移行をした人たちのくらしを見に、全国の仲間の元へと駆けつけました。その経験が仲間を想う気持ちをさらに大きく育てたのかもしれません。

山田さんの姿を見ていると、私たち支援者も変わらなければ、と思います。（山本俊作）

パンジーⅤ

試行錯誤しながら手探りで始めた無農薬での野菜作りも４年目を終え、できる種類や収穫量も見通しが持てる様になってきました。

今年度からは更なる収穫量の安定と収益の向上を目指して、４年単位で長期的に栽培計画を立てていくこととしました。今後はよりイメージを持って農作業に取り組めるように、売上報告などに加えて、栽培予定や野菜の販売状況についても、当事者会議で話し合っていきます。

そしてこの春、念願のグループホームがオープンします。築１００年の古民家を改装し、雰囲気のあるホームができました。

ここで、５名の新たな生活が始まります。

三谷さんはパンジーⅤ利用当初時から「グループホームに入りたい」と強い希望を持たれており、「みんなでクッキングをしたい」「買い物にも行きたい」とこれからの生活を楽しみにしています。

浅野さんは今まで金銭管理表を書いたり、自分で献立を立て自炊をしたりと自立に向けて準備をしてきました。グループホームで自立生活を開始する浅野さんが自信をもって「地域でふつうにくらしています」と言えるように、私たちはこれからも日中も夜も生活を支えていきます。

（平福貴行）

KSKR パンジーだより　No.92　第三種郵便物認可　通巻第 8989 号　2023 年 5 月 18 日発行

書き損じハガキ、（未使用）切手を送ってください！

ご家庭や会社などで書き損じのハガキ、スタンプを押していない切手など眠っていませんか？
当事者活動部門ではこれらを集めて活動資金にあてています。ご協力お願いします

高橋悦子　　寺野享子　　甲田浩子　　小松　崇　　川西悦子

パンジーでは、後援会員を募集しています。

賛助会員　１口　1ヵ月　　５００円　　本会員　　１口　1ヵ月　1,０００円
特別会員　１口　1ヵ月　3,０００円　　郵便振替番号 00950-1-300551　ｸﾘｴｲﾃｨﾌﾞﾊｳｽ「パンジー」

上映会を開きませんか？　DVD も好評発売中

知的障害を持つ人たちについて、もっと知ってもらうために、社会を変える力にしていくために
パンジーメディアは、出張上映会を行っています。

『あいむはっぴぃ！と叫びたい　クリエイティブハウス「パンジー」の挑戦』
『ヒマラヤの青い空と白い雪がくれたもの』『みんなに伝えたいこと』など多数。

シンポジウムや人権の研修会、学校の授業、事業所の研修など、パンジーメディアの映画を通して、
語り合いや交流の輪が生まれ、知的障害がある人たちへの理解が広がっていくことと思います。

費用・内容は、パンジーメディア　072-968-1615 にお問い合わせください。
メールでもOKです！　pansymedia@pansy-net.or.jp　**（DVD も好評発売中）**

お知らせ

パンジーメディアブックス　　形式：Kindle 版　価格:300 円

『幸せな生き方は知的障害者から学んだ　幸子と美咲と私の物語』　林淑美（著）

私は、知的障害のある子供を育てている人も、自分の人生を楽しんでほしいと思っています。その一歩を踏み出す、小さなきっかけになってほしい。そう思って、この本を書きました。

この本は、私がいつも相談にのっている幸子さんに向けて書いています。同じように知的障害のある子供さんを育てているお母さんたちにも、読んでもらいたいと思っています。

もしかすると、子育てを悩んでいる人にも役に立つかもしれません。

編集人
クリエイティブハウス「パンジー」
東大阪市東鴻池町 2－4－8
TEL:072-963-8818
FAX:072-963-8825

発行人
関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町 2-2
東興ビル4階

一九九六年五月一日　第三種郵便物認可　毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行　定価　１００円